

その頃、イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた。朝になると弟子たちを呼び集め、その中から12人を選んで使徒と名付けられた。それは、イエスがペトロと名付けられたシモンとその兄弟アンデレ、そして、ヤコブ、ヨハネ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルファイの子ヤコブ、熱心党と呼ばれたシモン、ヤコブの子ユダ、それに後に裏切り者となったイスカリオテのユダである。

(ルカ5章12~16節)

イエス様の最初の弟子達は多様な集団でした。漁師さん、収税所で働いていた人、学問が出来る人、血気にはやる人、お金の計算が得意な人、その他色々でした。彼らに共通しているのは

『イエス様について行きたい』という望みだったと思います。彼らは其々に異なる職業を持ち、生きる場所も生き方も、気質・性質も異なりましたが、彼らが一つに纏まって居続けられたのは『イエス様に対する愛』と『互いへの愛』だったのではないかと思います。言うまでもなく、彼らを教え導き、互いの相違を乗り越えるよう助けられたイエス様が共にいらっしやっただけからですが。

さて、2021年度が始まってから既に半年以上過ぎました。今、愛徳学園で共に過ごしているみなさんもイエス様に呼ばれ、キリスト教の愛徳学園を選び、集まって来ています。勉強が得意な人、スポーツに情熱を燃やす人、読書が大好きな人、周りの人に尽くすことを喜びとする人、おとなしい人、勝気な人等色々ですが、皆をイエス様が一つに合わせ、皆の心を一つに束ね、同じ神様の方に向かって進めるように導いて下さっています。そして色々な機会に、皆さんの

『お互いに支え合い、優しさで包む愛』を見るに付け、心が温かくなり、嬉しくなってきます。自分に心が向いている時、人は互いに分裂しやすく、不平や不満が吹き出してきますが、心が神様に向っている時、人は様々な相違を乗り越えて一つになって前に進むことができます。私は皆さんを見ていて、本当にそうだと確信することができ、愛徳学園で共に過ごす者の幸せを感じています。 お互いの出会いに感謝！！ 神に感謝！！

「ありがとう」の言葉

愛徳学園に勤め始めてからすぐに感じたのは生徒のみなさんの文章力の高さです。これはずっと続けている日記の習慣の賜物だと感じています。自分の想い、感じたことをとても上手に表現できるみなさんに大変驚きました。文章を書くのが苦手で苦痛な私は今の文章も代わりに書いて欲しいくらい、みなさんの素晴らしい能力に感心しています。

そしてもう一つは、よく「ありがとうございます」を言ってくれることです。ふとした瞬間でも何気なく最後は「ありがとうございます。」と言ってくれます。これは生徒のみなさんだけではなく職員室の先生方の間でもよく聞かれる言葉です。「ありがとうございます。」のひとことで言ってもらった人はうれしく、温かい気持ちになります。

授業で調理実習をすることがあります。実習は買い出しや準備をはじめ、調理中はいろんなところに気を配って大変な部分もあります。実習が終わって教室に帰るとき「ありがとうございました。」と言ってくれる人がいます。私はその言葉を聞くと、頑張って実習の授業をしてよかった、ととても幸せな気持ちになります。

以前、調理室の後ろのホワイトボードに大きく「先生 Gracias ありがとうございますでした！楽しかったです♡」と書いてくれたクラスがあって、涙が出るほど嬉しくて記念に撮影しました。もちろん、今もその写真は大切にしています。みなさんのおかげで私自身も日常で「ありがとうございます。」をたくさん使うようになってきました。

相手に感謝の気持ちを伝える優しく美しい言葉はお互いの関係を深め、気持ちを豊かにしてくれます。言葉の深みを理解しながら大切に使って、さりげなく感謝が伝えられる素敵な女性になってほしいと思います。